夏の体験

essay

自然の中で遊ばせれば子どもの「心」が育つと思っていませんか？

明照保育園園長・中島章裕先生

子どもと過ごす時間をたっぷりとれる夏休み。こんなときこそ、子どもたちにいろいろな自然体験をさせたいですよね。では、キャンプやハイキングで自然とふれあえば、五感を通して自然を楽しみ、自然への愛着や尊さを学べるのでしょうか？　実は必ずしもそうはならないこともあるのです。

＊

園児でも自然に囲まれて育ったはずの子がごみを捨てたり、家で犬や猫を大切に育てている子が、虫をおもちゃのように扱うこともあります。なぜでしょうか？　子どもの心って、いろいろな経験さえすれば、すぐに正しい方向に育つというものではないからです。

＊

親をはじめとしたその子のまわりにいる人たちの心こそが、子どもの心を育てるのです。いくら園でザリガニを育てていても、先生が「生き物を与えさえすれば、子どもたちに優しい心が育つでしょう」と思っていれば、その心は子どもたちに伝わります。キャンプやハイキングをしても、大人たちがどんな気持ちで自然とかかわっているのかを感じています。

＊

さあ、楽しい夏休み。お子さんのまわりにいる人たちには、どんな「心」がありますか？

なかじま・あきひろ◎愛知県にある明照保育園園長。「とにかく楽しい保育園に！」をモットーに、日々子どもたちと一緒に走り回る毎日。モトクロスライダーの横顔ももち、家では2男1女の父でもある。

イラスト／今井未知　取材・文／山神美喜子

特集

思い出だけで終わらせない！

子どもの心がひと回り成長する

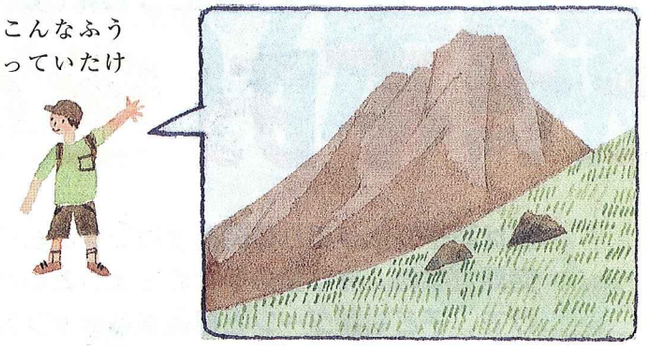
とっておきの

夏は親子でたっぷりの時間を過ごすことができる時期ですね。おうちのかたのちょっとした働きかけで、子どもがグーンと成長するチャンスでもあります。ここではそのヒントをご提案します。

汐見稔幸先生がアドバイス！

ちょっとした工夫で子どもはグンと成長します！

成長へのひと工夫① たったひとつでも、子どもの常識をくつがえす体験を！



★子どもの成長ポイント

「こんなものもあるんだ」という驚きは、子どもの発想や視野を広げることにつながり、新たな“常識”をつくるきっかけとなります。

自然は子どもの常識を揺さぶる体験がいっぱい！

4・5歳になると、子どもはようやく自分を取り巻く環境や、他者との関係を理解できるようになります。つまり自分なりの常識（世界観）をつくり始めるのです。この常識をほんの少し揺さぶってあげるだけで、子どもは大きく成長します。例えば、水は蛇口を回せば出るのが当たり前だと思っている子どもに湧き水をくんで飲ませると、とても驚きます。そして「そうか、こうやって飲む水もあるんだ」と、子どもの〝常識〟に新たな要素が加わるのです。

監修&アドバイス
汐見稔幸先生
しおみ・としゆき◎東京大学大学院教育学研究科・教育学部教授。専門は教育学、子どもの発達的人間学。主な著書に『いきいき小学生』『おーい父親』（大月書店）、『0〜5歳　素敵な子育てしませんか』（旬報社）などがある。

成長へのひと工夫② 親自身が楽しめる体験を、子どもと一緒に！

★子どもの成長ポイント

子どもは親が楽しんでいる姿をモデルにして、楽しみ方を学びます。そして、親のまねをするうちに、少しずつ自分なりの楽しみ方を見つけられるようになり、楽しみ方の幅をどんどん広げていくことでしょう。

こういうやり方をするよりも…

マニュアル片手にテントの設営に挑戦。でもやっぱり難しい…。子どもはちょっぴり退屈ぎみのようです。

こうすればOK！

おうちのかたが楽しんでいる姿を見せるだけで、子どもはワクワクして「自分もやってみたい！」と思うようになります。

キャンプや釣りばかりが自然体験ではありません

子どもの常識をくつがえす体験と言いましたが、あまりそればかりを意識する必要はありません。大切なのは、その体験が子どもの心にいつまでも深く残るような、楽しいものであるということです。そのためには、まずおうちのかた自身が存分に楽しむことです。親が思いきり楽しんでいる姿を見れば、子どもは興味をもち、自分も同じようにしてみたいと思うでしょう。

テントを張ったり魚釣りなどをすることだけが自然体験ではありません。緑に囲まれた公園でお弁当を広げたり、双眼鏡を持って野鳥を探すことだって、立派な自然体験です。ですから、キャンプや釣りなどをしたことのない人が、無理して挑戦する必要など何もないのです。

アウトドアに不慣れな人や苦手な人は、ほかの親子と一緒に出かけるのもいいでしょう。複数の親がいれば、お互いに刺激し合って自然の中で遊ぶ楽しさに目覚めるものですよ。

成長へのひと工夫 ③

感受性は人それぞれ。自分の感動を子どもに押しつけない！

★子どもの成長ポイント

親の受け売りではなく、自分自身の感動としてきちんと認識できるようになることは、とても大きな成長のステップです。幼児期の今からたくさんの感動体験を重ねることが、やがて大人になってから物事を考える際のベースになります。

「見てごらん。海が青くて、とってもきれいだよね。ほら、あのヨットの人、気持ちよさそうだと思わない？」。しきりに感動を分かち合おうとするお父さん。子どもは困惑しています。

「こんなキレイな貝、初めて見たよ」など、自分が感じたことを素直に表現すれば、子どもも自分なりの感動を受け取るでしょう。

自分の感動をただ素直に表現すればいいのです！

日常を離れ、どこかに出かけるということは、それだけで子どもにとってとても楽しいものです。また美しい風景を親子で一緒に見れば、すてきな思い出になるでしょう。

ただし、親の感動を子どもに押しつけるのは避けたいですね。せっかくの体験だから、親子で感動を共有したくなることもあるでしょう。でも、「きれいだよね。あなたもそう思わない？」などと言ってしまっては、子どもが自由に答える機会を奪うことになってしまいます。

また、何を美しいと思うかは人それぞれで、それが個性なのですから、子どもが自分と同じように感動するとは限りません。

おうちのかたは、「こんなきれいな海、お父さんは初めて見たよ。感激したなぁ」「お母さん、こういう景色が大好きなの」などと、自分が感じたことを「私は」を主語にして素直に表現すればいいのです。

成長へのひと工夫 ④

親子で同じ目線に立って、自由に会話を楽しむ！

★子どもの成長ポイント

子どもは、初めて出合ったものを前にしたとき、ただじっと見ているようでも、心を大きく動かされ、感性をみがいています。そこに親子の会話が加われば、子どものイメージはぐんと広がり、さらに豊かな感性がはぐくまれます。

「あの雲は積乱雲っていってね、海の水が水蒸気になって…」。せっかくの知識も、子どもには興味がないのか、あまり関心を示していないようです。

お互いの想像力を駆使して、イメージを膨らませましょう。会話がどんどん発展することでしょう。

一見何でもない会話から子どもの想像力が育つ！

親子関係においては、親が子どもに教えるという上下の関係になることが多いですが、自然体験の場では同じ目線に立って会話を楽しみたいものですね。

特別な知識など何も必要はありません。自由にイメージを膨らませながら言葉を交わせば、それでいいのです。例えば空を見上げて「あの雲、恐竜みたいだね」「本当だね。あ、だんだんかたちが変わってきたよ。今度はソフトクリームみたいになったね」「あの雲、どこまで行くのかな」「海の向こうにある国まで行くのかな」といった具合です。

このような会話を、ぜひ親子で一緒に楽しんでほしいですね。お互いの想像力を刺激し合って、会話はどんどん発展することでしょう。親子にとって、豊かなコミュニケーションになると思います。

こうした会話は、もちろん日常生活の中でもできますが、新しいものと出合う機会の多い自然の中なら、会話のきっかけになる素材をたくさん提供してくれるはずです。

自然体験だけじゃない！日常生活にも子どもの成長を後押しするチャンスが！

日常に変わった体験を持ち込む！

わざわざ海や山に連れて行くなど、必ずしも子どもに自然体験をさせる必要はなく、日常生活の中にもその機会は豊富にあります。

ポイントは、いつもとほんの少し視点を変えてみること。例えば買い物や散歩のコースをちょっと変えるだけでも、ワクワクできる体験ができるはずです。また、夏は日が長いので、ふだんはなかなかできない夕暮れの散歩を楽しんだりするのもいいでしょう。そんなふうにして子どもと新鮮なひとときを楽しめば、子どもはいろいろなことを感じて、ひと回り成長するのではないでしょうか。

暗くなってから親子で散歩できるのは夏だからこそ。昼間とは違った雰囲気の町並みに子どもは新鮮な驚きを覚え、その驚きは深く心に刻み込まれるでしょう。

ときにはママ以外のおうちのかたが子どもと買い物に出かけるのもいいですね。店内を回るコースや商品選びなど、ママとは違った買い物の手順に、子どもはワクワクするでしょう。

多少遠回りになっても、いつもとは違う道順を選んでみては？　きっと親子でたくさんの新発見を体験できると思いますよ。

ふだんは子どもが遊んでいる様子を見守っているおうちのかたも、一緒に遊んでみましょう。自分と同じように楽しんでいる姿に、子どもは大喜び！

自然体験だけでなく、夏はふだんの暮らしの中にも子どもがグンと成長するチャンスがたくさんあります。いつもとはちょっと視点を変えて、子どもとかかわってみたいものですね。

投稿用紙 すてっぷ版

月刊子どもを学ぶ　8月号

会員番号シールをおはりください。

フリガナ お名前　（　歳）	ペンネーム 電話　（　） FAX　（　）
〒□□□-□□□□ ご住所　都道府県	
フリガナ お子さんのお名前	（男・女）　歳　カ月 ／ 第　子

【個人情報の利用目的】
この投稿用紙にご記入いただく内容は、『月刊子どもを学ぶ』への掲載、ならびに謝礼・プレゼント発送の目的で利用します。

「　　」係　裏面のアンケートにもぜひご協力ください！

※FAXでの投稿で用紙が2枚以上になる場合、2枚目以降はお手持ちの便せんなどをお使いください。その際、それぞれに必ずお名前をご記入ください。

※いただいたおたよりは、『月刊子どもを学ぶ』誌上でご紹介させていただくことがあります。ペンネームなどをご希望のかたは、上記ペンネーム欄に必ずご記入ください。記入がない場合は、本名で掲載させていただきますのでご了承ください。
※誌面の都合により、趣旨からそれないかたちで、おたよりの一部を編集室でまとめさせていただくことがあります。ご了承ください。

●あて先カードの使い方
右のあて先カードの「　」係に応募内容に合わせて係名をご記入のうえ、切り取って封筒におはりください。

〒101-8685　東京都千代田区神田神保町1-105　神保町三井ビルディング
(株)ベネッセコーポレーション
こどもちゃれんじ
『月刊子どもを学ぶ　すてっぷ版』
⑧編集室
「　　」係

〒101-8685　東京都千代田区神田神保町1-105　神保町三井ビルディング
(株)ベネッセコーポレーション
こどもちゃれんじ
『月刊子どもを学ぶ　すてっぷ版』
⑧編集室
「　　」係